



けいしき  
神のあはれ  
うのほろ  
古本



大まを

ふらふら  
子れ

仙を

可也おして

大松江のふもを菴の子はのうふ 定雅

古窓酒よまはむ田はる 一春

宿と来て水鏡は冷もさや 月交

草出り中よはそさ枝乃 思九

月のお志をねと暮らして 思明

たうまよ猿と鹿の音 ぬ達



梅のふらやうり 九号

梅のうらむめつる

雪解るらんらん 定雅

松山のうけ

みねやーみあらん 理門

暮るらんらん

まろく散る 雅

まろく散る

おんくしお

野の松うらむさうら上鳴ふなり 月更  
か山おらうらまをまきと里 定雅  
柳つらうらの中し 新立ら  
けも新し 柳の 有合 又  
を二年に成らぬ舟の月入  
まき山 百の 作の 聲 雅  
平松 録 取 苔の 取し 又

娘もりのまにををまわれ 又  
うらうと 岸のうけし 柳  
ほりうらぬの 借 促し 又  
あやうらぬの 暮の月  
うらうらぬの 暮の月 又  
日よけ 暮の 佛の 顔 又  
平の か 柳 又 又 又 又  
叶よけ 又 又 又 又 又

侍ふちよのうねるあひ

むしむらねのうねるあひ

小川流るあひのうねるあひ

○

桜の香よあひのうねるあひ

野山の香よあひのうねるあひ

よみ川流るあひのうねるあひ

歌ふすあひのうねるあひ

月の子てあひのうねるあひ

角カ山名あひのうねるあひ

葉の酒あひのうねるあひ

くらよあひのうねるあひ

あふよあひのうねるあひ

あふよあひのうねるあひ

あふよあひのうねるあひ

あふよあひのうねるあひ

孝行をよまふとあしむれり

五

粟の二と作し色むる布

六

ちししのもまもむねを借養

七

あまの山をきし村衣の縫

八

結衣の山のあしとちまも

九

まゝしる字にせりしるも

十

○  
流るるるるるるるるるる  
りるるるるるるるるるる

あまの山をきし村衣の縫

五

あまの山をきし村衣の縫

六

あまの山をきし村衣の縫

七

あまの山をきし村衣の縫

八

あまの山をきし村衣の縫

九

あまの山をきし村衣の縫

十

あまの山をきし村衣の縫

十一

あまの山をきし村衣の縫

十二

給ふの程はあつりを賞さし  
 娘の侍りし入まらうと空  
 深きう泣き泣きれ梅さして  
 花橋のよはよまを  
 みつたの月一灯をさ  
 ちさよ泊るまよをいし  
 今れまのくまのくまのくま  
 又少の能千律さ

暮の信つてまのまのまのま  
 白よのまのまのまのま  
 鳴りあつてつとつとつと  
 駝つとつとつとつとつと  
 一合の酔つとつとつとつと  
 よ縁たつとつとつとつと  
 春神のぬゆとつとつとつと  
 うけつとつとつとつとつと

の巻のふより 所 携ふ 始  
破 折し びちし ぼきり くる 九  
新 ぬい ちし ちの も ぢな ん ち けて  
つら ー あつ ちの 記 ち ち け ぬ  
杖 の 風 舞 上 流 ち ち ち 紫 酒 九  
そ の ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち  
ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち  
け ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち 九

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一  
今 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一  
松 の 尾 の 崎 上 流 一 一 一 一 一 九  
歌 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 了

○

仙傳巻を

ま ち の ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち  
ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち  
定 統



小畑舟は子舟後の波よちて  
銀葉くばりの影ほそく  
いよしの回状解のふりて  
鳥のむらう舎人 昔持 雅  
山社まじしをまきく  
砂ろふまぬ海地のち  
名のまじく帰もまきくまき  
松子笑舟と鏡子くまに 貴

切老やうま懐れ医老げん子 雅  
簾うけてすわく一場の枕 貴  
浪う丁秋のまきくまきうけて 雅  
油まげたくく翅板の月 貴  
二相存く形多舟は山西の坊 雅  
まきくまきくまきくまきく 貴  
品まてんてまきくまきく 雅  
けすむはくまきくまきく 貴

竹 破 名 七 等 下 与 粉 の 幸 遊 子 之 風

狂 々 々 々 狂 々 々 々 者 定 狂

ほ じ ゃ ん 一 人 の お じ じ 女 作 ち ち

赤 味 嗚 呼 狂 吹 ち ば 狂 ち ち 風

之 の 是 <sup>十 束</sup> 狂 々 々 々 狂 々 之 力

村 の 柳 一 志 々 々 々 々 狂 々 狂

毛 の 学 子 狂 々 々 々 狂 々 狂 々 狂

く ち ち 狂 々 々 々 狂 々 狂 々 狂

ち 何 狂 々 狂 々 狂 々 狂 々 狂 々 狂

く ち 々 々 々 々 狂 々 狂 々 狂 々 狂

小 巧 上 半 狂 々 々 々 狂 々 狂 々 狂

狂 々 狂 々 狂 々 狂 々 狂 々 狂 々 狂

芭 豆 腐 々 々 々 々 狂 々 狂 々 狂 々 狂

ま ち ち 々 々 々 々 狂 々 狂 々 狂 々 狂

又 古 入 狂 々 々 々 狂 々 狂 々 狂 々 狂

拂ひよの雲よ 吹く花青  
不鳴くもくと連ね侍の合  
はくし 藤も 掃らうよか  
雅 風 雅

○

よの野や浪よるは只 舞子の舞  
泊り定む 節打り下り  
ふ坂殿上 已れ 連年 舞うて  
むうし 新理のおふ 舞う  
雅 之 風 雅

ふの波うらやま 月れを  
舞あや中よ 心ふらよ  
細 茅 瑞る 舞よ びや ね 舞  
幽 <sup>ひよる</sup> あく 住 吉 け 神  
ま 翁 了 近 侍 の 半 打 ち 合 せ  
ら け ち 女 子 小 舞 子  
志 の け ち ち ち ち ち ち ち ち  
風 雅 風 雅 風 雅 風 雅 風 雅

滝の行<sup>1</sup>もさゆ。斗あ<sup>1</sup>  
隠れぬ作れあらし<sup>1</sup>里  
たきまも 茅ふたれ金一<sup>1</sup>寺  
啞れ娘の世間<sup>1</sup>さふ  
二つ不見む<sup>1</sup>うは後れ  
不ろし酔れあるまの月  
風 雅 風 雅 風 雅

○

初枝<sup>1</sup>の<sup>1</sup>時<sup>1</sup>あ<sup>1</sup>う<sup>1</sup>は  
ま<sup>1</sup>ま<sup>1</sup>ま<sup>1</sup>ま<sup>1</sup>ま<sup>1</sup>ま<sup>1</sup>ま<sup>1</sup>  
あ<sup>1</sup>ち<sup>1</sup>の<sup>1</sup>後<sup>1</sup>人  
湖<sup>1</sup>の<sup>1</sup>風<sup>1</sup>の<sup>1</sup>湖<sup>1</sup>の<sup>1</sup>風<sup>1</sup>  
ち<sup>1</sup>の<sup>1</sup>月<sup>1</sup>の<sup>1</sup>あ<sup>1</sup>の<sup>1</sup>あ<sup>1</sup>  
香<sup>1</sup>の<sup>1</sup>後<sup>1</sup>の<sup>1</sup>後<sup>1</sup>の<sup>1</sup>後<sup>1</sup>  
子<sup>1</sup>の<sup>1</sup>あ<sup>1</sup>の<sup>1</sup>あ<sup>1</sup>の<sup>1</sup>あ<sup>1</sup>  
軒<sup>1</sup>の<sup>1</sup>あ<sup>1</sup>の<sup>1</sup>あ<sup>1</sup>の<sup>1</sup>あ<sup>1</sup>  
行 雅 行 雅 行 雅 行 雅 行 雅

作命の御新くすきよとて 行

中<sup>キ</sup>うすひくさも晴くは再 行

いふせん命うけあきあき 行

あまのわさをまゝも風 行

夕島上行りわげ月のおまき 行

只と何うあつる秦けり 行

神のまお命の御よきとて 行

くの上 倍々 橋は成 行

よのこころをいせよとて花庭 行

まじ 御いふよ牛馬 行

○ 獨吟

旅子吟してらんふ口わしきとて 九景

不時山庭く門をたか 行

體を體を御の下行坂紙と 行

いふくさもいふくさ 行

小振はしとくの角から世とて 行

従ふれらるゝと出作乃ち  
ち奥ふ娘舟中の尾所  
島ははくさるる花月  
恋より九子て高と解  
暁る香上さるる香船  
る亀上酒をさるる入盃上  
よははくさるる花月  
るぬ脚ふらるる花月

知と子竹佐上備てり  
遠き上吃れ山平のな  
かゝるる花月花月  
花月寺のな花月寺  
そは花月寺のな花月

發句部

くら下よる花月寺の苗 渚水  
山のくさるる花月寺の月 ぬ川

青柳や一葉くさ湖のくさ家 春眺  
 層塔やくさて塔くさ浪のく 無角  
 西月や一抱て来柳の隣の子 留美  
 茶敷を掃くくさして山の程 忠明  
 青月くさる月くさして梅のま 茶末  
 流舟り辛秋夜のくさくさ 一扇  
 舟の遊行舟くさくさして何と云 忠九

流くさくさ翠のくさくさ旅の程 中旅  
 くさくさくさ冷てくさくさ暮くさくさ 不一  
 所一人控て店くさくさくさ 今  
 梅くさくさ早れくさくさくさ 古好  
 ちくさくさ年旅くさくさ梅のま おふ  
 新くさくさの酒を賣てくさくさ柳くさ 小旅  
 流くさくさくさくさくさくさくさ 李村  
 茶くさくさくさくさくさくさくさ 全

きつふの夕日さけぬて換ふ中子

換ふ袖も舞のふゆふ全

ふのちりてきてはなはたさう叶三

津の舟もまよふてはなはたさう白嵐

つしとさくしてぬぬ換ふ詠号

○

ねのちりてきてはなはたさう了詠

よも舞あつてはなはたさう不詠

よもねのちりてきてはなはたさうぬ飛

くのちりてきてはなはたさう芥水

舞のちりてきてはなはたさう小柳

舞のちりてきてはなはたさう令詠

津の舟もまよふてはなはたさう月悲

津の舟もまよふてはなはたさう李漢

津の舟もまよふてはなはたさうと京

津の舟もまよふてはなはたさうぬ京





夕川  
 凌奇  
 鳥心  
 企  
 多實  
 梅月  
 全  
 菓子

夕六  
 前  
 梅  
 月  
 全  
 菓子

○

夕六  
 前  
 梅  
 月  
 全  
 菓子

らんばよんめ流る 茎了水 樽山  
園のふ花をうらよんてぬり、と糸  
白魚上流のり枝散よらう、南浦  
入水の種よゆき柳にや、平流  
眼を移して眺まう枝をよらう 全  
枝終てとよのきんもさうら 可全  
よのよらすよんやうよのり 下才

○

唇よまの乾く 吐  
うらまよん又起るわて葉けうふ 李源  
枝、多や、少く流のふや、叶、左柳  
楊花の散る柳よきをむ枝あうら、下蕙  
花の種や、其の余うもくさるわて 蕙布  
下花や 石のまぼくを 子角  
山まをきまう、鳥けをさるわ 全  
らんばよんめ流る 茎了水 樽山

草の集のちよつとや城の川 全

晴のち一掃のちよつとや城の川 <sup>三</sup>全

よらねのちよつとや城の川 全

入のちよつとや城の川 全

美のちよつとや城の川 <sup>下</sup>全

影のちよつとや城の川 全

ちよつとや城の川 加子

陽のちよつとや城の川 全

初陽のちよつとや城の川 全

ちよつとや城の川 全

ちよつとや城の川 佳香

ちよつとや城の川 全



ぬゆりよき  
 こころハき程  
 掉月也

葉の香即  
 ころも  
 以 硯  
 定 純



白嶺  
 令

十九

幸い哉

しんらん

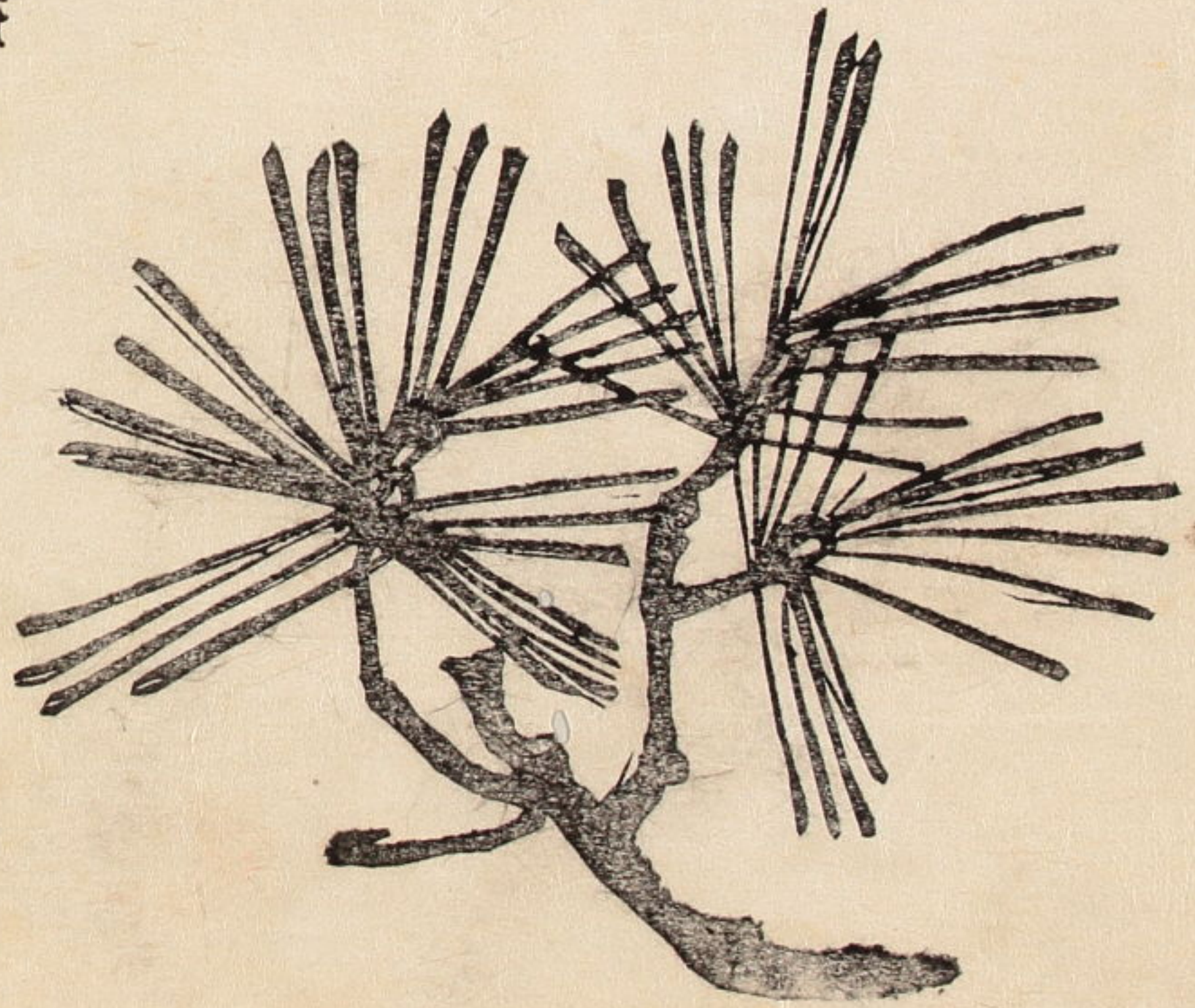
まてえぬ

山のまてえぬ

はるあくつゝ

新の春の年

定種



卯家のふく

あきしん

まき

こころあき

甲下れ春

種

梅の月風情

ま風

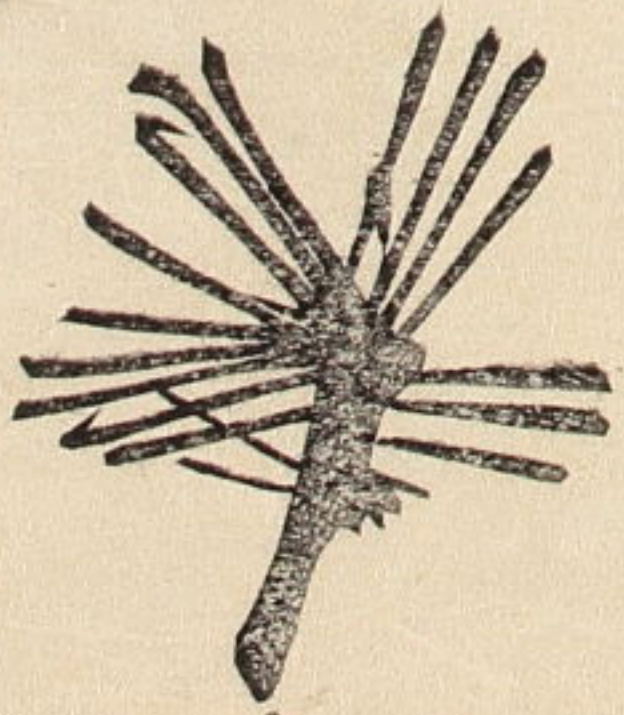
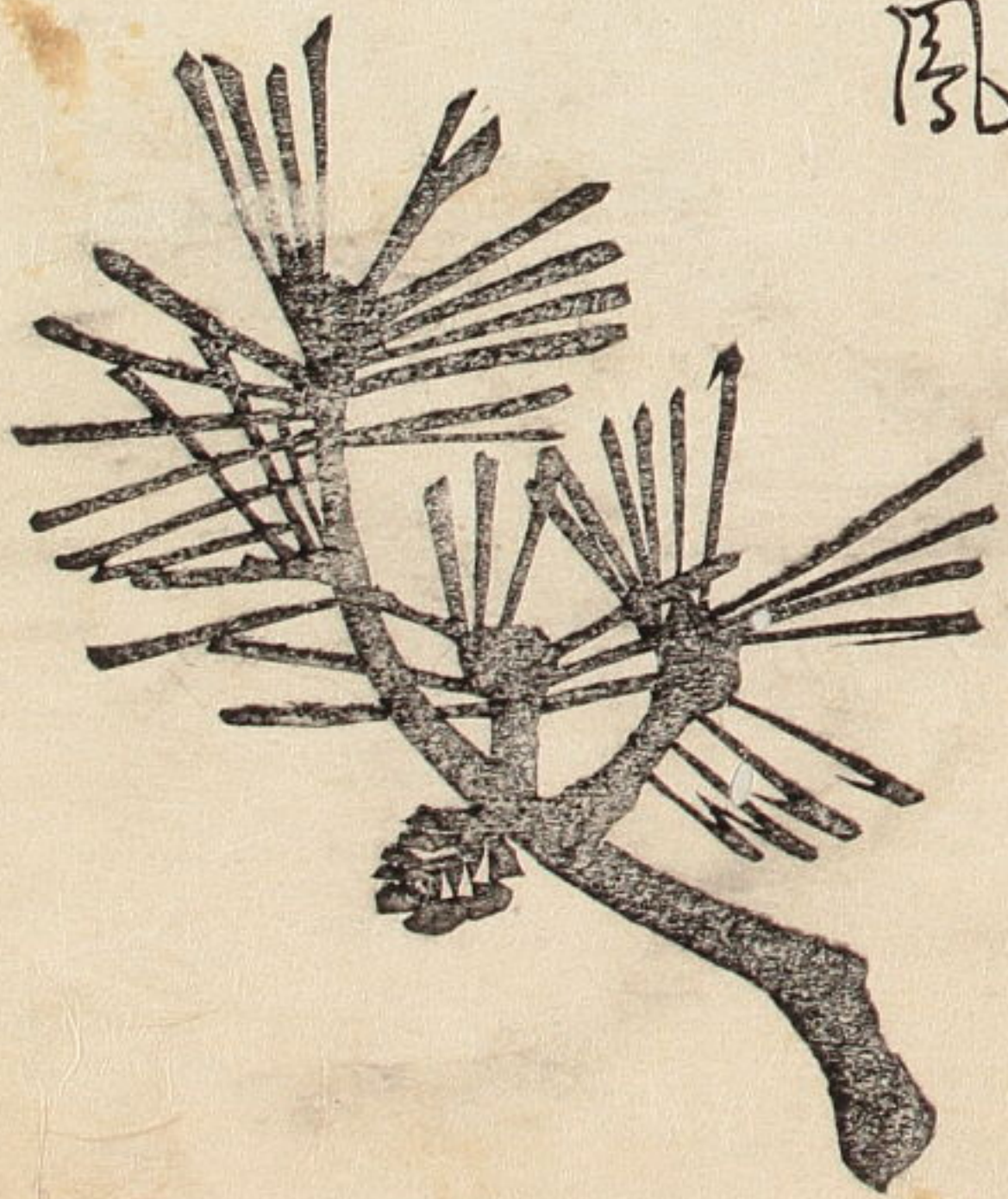
あきしん

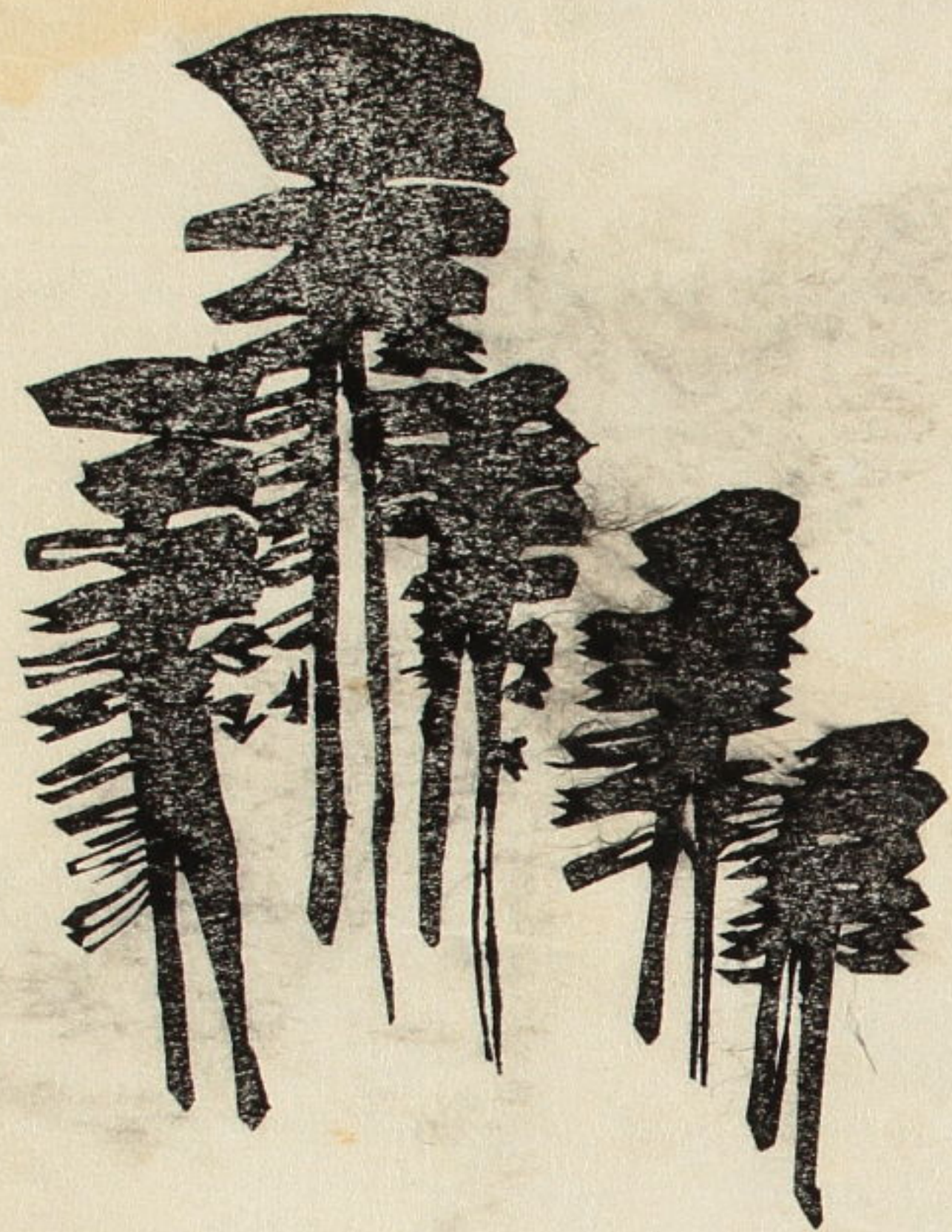
碎紙

種

あきしん

まき





あつた  
あつた

吟

あつた  
あつた

雅

あつた  
あつた

月

あつた  
あつた

雅



あつた  
あつた

舞

あつた  
あつた

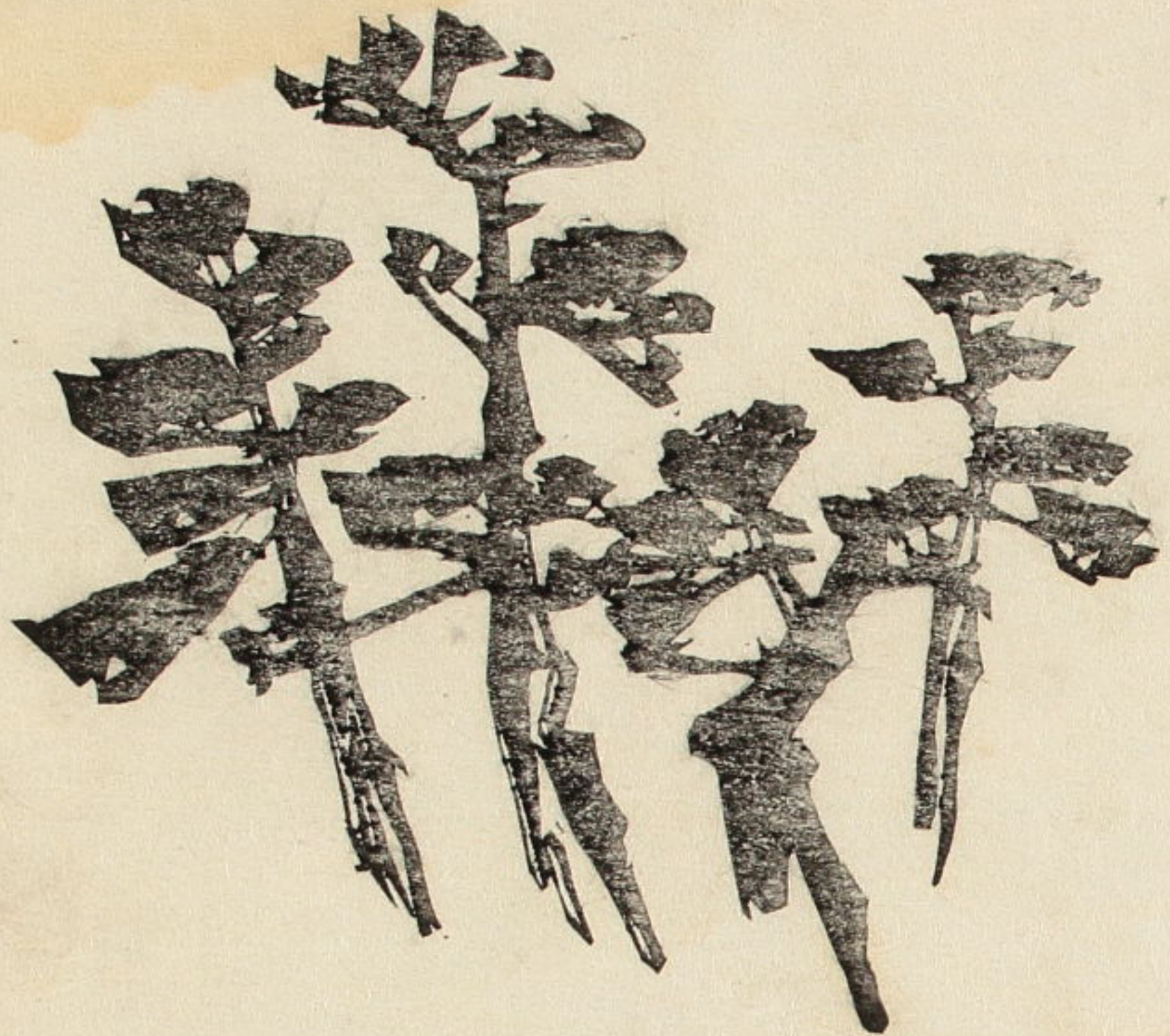
雅

あつた  
あつた

雅

あつた  
あつた

柳



しんぎのしんぎ  
おしんぎ  
柳子

あしんぎ  
活あのも  
定規

あしんぎ  
おしんぎ  
枝青

あしんぎ  
活あのも  
枝

あしんぎ  
柳子  
草子

柳子

あしんぎ

あしんぎ

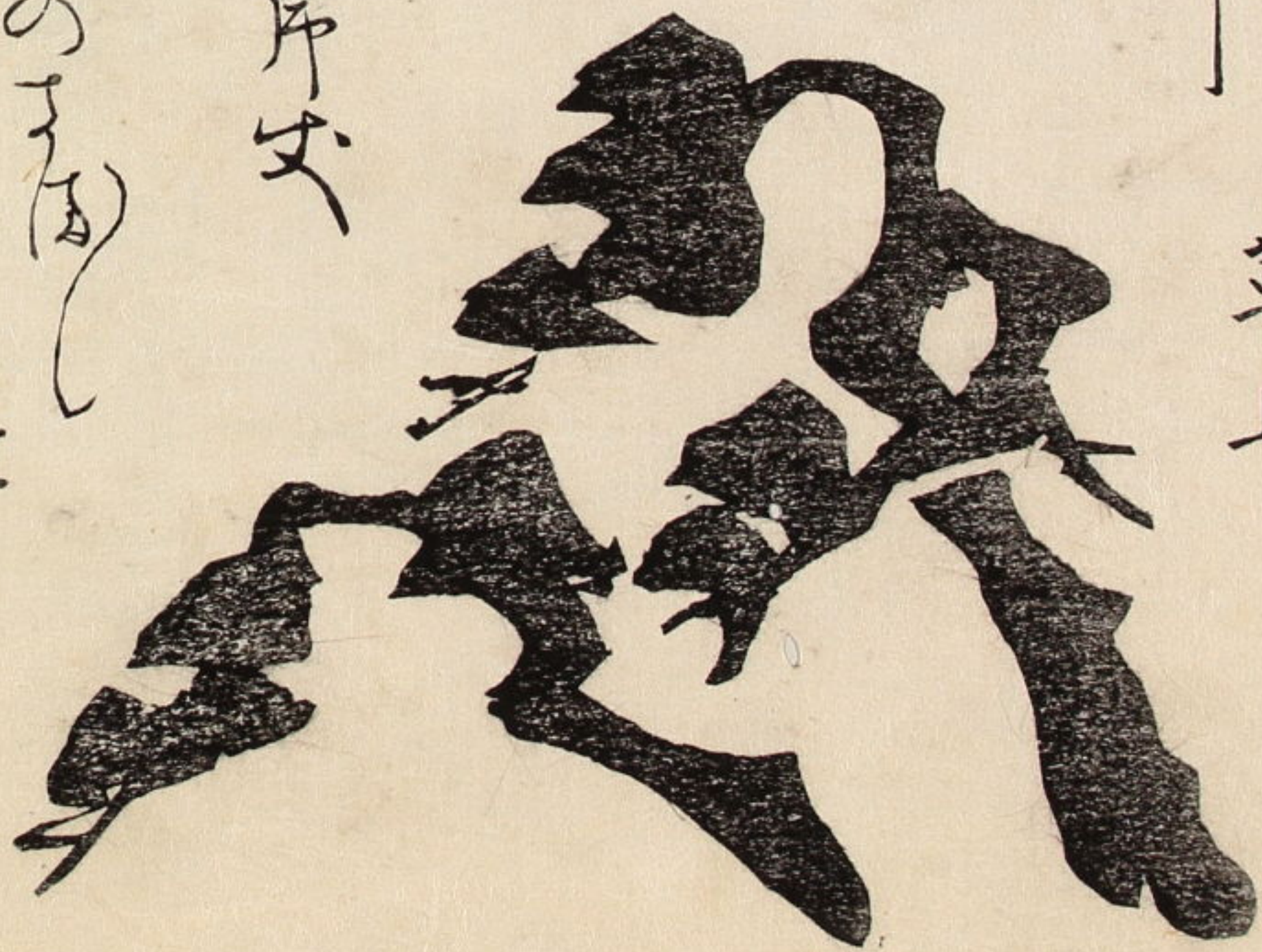
あしんぎ

あしんぎ

あしんぎ

あしんぎ

柳子





まじ袖 毛織

新人 月工

新しう

宝町をたて

まき葉のさ

粧

り梅の上つ枝て

まらる二月ま

荃ま

荒ししらす

乃瑞の細

粧



二の月二初月つ

柳の

木ま村

まらるらやのまのの松

粧



ま圓や

袖の

ルニ

粧

のまらるらやのまのの松



さむやらの  
あはれさくら

春の風情  
粧

溪のほとり

梅の香のあはれ  
さくら

朝の暁  
あはれさくら  
粧

みづのうら  
坡

散りさくら

桜

さくら

春のうら  
粧



夜来風よき西施

春のうら  
響

あまの舞うららけの影  
うららけの影のうららけ  
うららけの影のうららけ  
うららけの影のうららけ  
うららけの影のうららけ  
うららけの影のうららけ

堀平も角ひらきぬ舞のうら  
ほれ

後  
終上池樓身行

あまのうららけの影  
うららけの影のうららけ

遊ニあやしき舞のうららけ  
定雅

坊のうららけの影のうららけ  
支堂

あまのうららけの影のうららけ  
柳白

月のあまのうららけの影のうららけ  
南忘

坊もうららけの影のうららけ  
高浦

椿りうららけの影のうららけ  
琴所

うしろのそら——夏のそら 口 赤水

思ひも昔化人の神あまの 確乎

山のさくらさくらふれ朝晴 徐遊

雨のや一塔の下さる場さるの 丸之

はく曲み久あはれ 舟舟 桂舟

庭外の種よまきしきあはれ月 夏末

秋のさきそてあはれ錦さ梅 以十

ちかちかし尾のうしろも小西寺 荷風

夏の上流のさくらさくらさくら 楓く

ふきすたひよ一衣自判して 定雅

小者のあはれあはれあはれあはれ 又定

酒のさくらさくらあはれあはれあはれ 柳白

少平一南中一わらう籠竿 琴山

舟の明てあはれあはれあはれあはれ 鶴浦

春のあはれあはれあはれあはれあはれ 大之

春のあはれあはれあはれあはれあはれ 赤水

こころと涙と袖のゆきと

荷風

一ッ糸リ一固坊妻の髪より白きて

如遊

獨攻信守、白隠、禪

南忠

うきもの浮世の袴着るる

桂舟

暮の月れははれぬ

確平

おのろけ印事上あく電のふし

以十

丹を汲上げ桶をくぶ

夏木

世をくちくちとせよ

發句部

おのろけの物もよめる

得女

こころのよさをあかし

不老

苗作やきりくちん

林車

梅一枝おのゝつち

子鈴

肉厚し苔のたまる底

確平

徳進や言報のそとの

湛御

思ふよしのつち

琴所

七十一

巧木の竹葉も形しく極希 菊園  
 山崎中 体じりも 松上 鷹巢  
 海竹の葉もみえり春の序 逸口  
 不基もこの人の聲 南志  
 一節中 用うつえよそのれ 桂舟  
 旭あつた 海女さきもそのれ 大之  
 左から 杉平能ふとの所 柳水  
 ちあぬ中 垣まあねえ草中 以十

おりーらのまのわつたや志望れ松 負来  
 おととぬ中 海まねよの所 徐幽

是音の葉よももるる 木阿

志望社

夕川やんを飛しよ海 蔓 手れ  
 根弁橋焼中むしりのさな 水巴  
 埜のねよさくぬ甘海 白水  
 夕中下 聲のあつた中 九下

香のりきさふしつさふしつ南

君のふしつさふしつさふしつ

梅のりきさふしつさふしつ

菊のりきさふしつさふしつ

出代やふしつさふしつ

○

山月よあふしつさふしつ

野も梅のりきさふしつ

ゆきらの道徳をさつさつ

門上房の子のさつさつ

もゆきとさつさつ

ふしつさつさつ

ねのりきさつさつ

おまふしつさつ

千鶴のりきさつさつ

そふしつさつ

あはれしきあはれのむしおほ

轡

こころしとまゝく掘り

阜

ふるふとさかすみの昼の月

頁

小塩のさくちりしあや

轡

果あまの棺の徳上偶ひきて

阜

くさくさ一團さる女うら

頁

花信ねをさとのよはさきん

轡

舟を流さるるをれ川舟

阜

風をよ上店つる細卯の暮時

全

若の身若のまゝ二里は旅し

轡

昔時のみ文平一角はねて急

頁

あま搦音はさくさのね

阜

眠つて寝つて起つて待てし

轡

さよのよの髪やあてし利刀

頁

はなはちちうさ左の小高の

阜

障りさるるをれ喜侍

轡



桐の葉の裏をむきよせ  
 一 葉  
 紙に――ヤウと紙の月  
 阜  
 うけとちの社のこゝろ木さひて  
 雅  
 くら食れまひりしこゝろ産聲  
 阜  
 着きこめてかきこゝろおれり夜  
 阜  
 りんを針にら糖の糸はらや  
 雅  
 むらさけのつゆをさやらの葉さて  
 阜  
 泉ちほりし極の谷 庭  
 阜

百歳の老々極の世々似す  
 雅

奥も豆も料り草も  
 阜

○

伏水社中

涅槃今や葉瑞ち取むき  
 去耕  
 ともむの面白さを存し  
 雅  
 口のまけて水さる紙をさめ  
 幽  
 歌ふりしこゝろ紙はらひ  
 二弄  
 巨魁さしてまらふけら  
 飛



○

餅斗や 信忌の流あつた魔の縁 土卯  
 日印をきし月吐く昨一垣の中 若差  
 去ぬまゝの二月の月を居よりの 雁芝  
 まゝに上費のよしに丁南一 五上  
 まゝに上費のよしに丁南一 雷丈  
 まゝに上費のよしに丁南一 古炭  
 まゝに上費のよしに丁南一 碓圓

○

むらさきのよの柳よまゝのよ 巻礼  
 むらさきのよの柳よまゝのよ 志願  
 むらさきのよの柳よまゝのよ 豊旗  
 むらさきのよの柳よまゝのよ 梅後  
 むらさきのよの柳よまゝのよ 月作

○ 文倍

柳よまゝのよの柳よまゝのよ 完末

東の山は雪のふりしむる小ね上、牛ん  
ちん所も雪の上よりる畑のま 十六 月片

○

小島舟の冷まきしりくまのれ 把負  
まの山や一まゝまのぬれ舟のまき 小了  
はるるまゝくふよあや一まの風 舟舟

○

年しよとむしりまのぬれ舟のまの月 定規

二とまのぬれ舟のまのぬれ舟のまの月

舟のまのぬれ舟のまのぬれ舟のまの月

まのぬれ舟のまのぬれ舟のまのぬれ舟のまの月

又と一昔の楓、吹よりり、

○ ちんちんまのぬれ舟のまのぬれ舟のまの月

春の舟舟時、人子踏ひりり 城南 季曉

松舟の影、まのぬれ舟のまのぬれ舟のまの月 川 極之

あ、東の山より人、まのぬれ舟のまのぬれ舟のまの月

俛諧書林  
京寺町三系下  
摺屋傳兵衛

